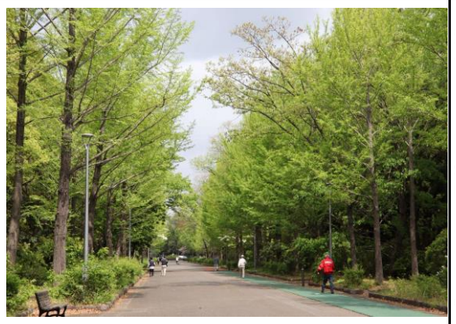
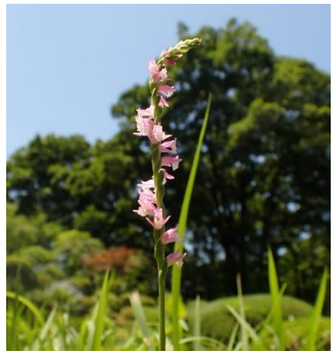
令和5年4月～令和6年3月 いきものガイドウォーク（全10回）

月	日	担当		観察内容	写真1	写真2	コース図
4	22	二宮	芳野	テーマ：「新緑の木と花」 天候：曇り 参加者：15名 昨日の暑さにとって変って、曇りで肌寒い朝でした。 それでも、航空公園には多くの来客者がいました。 南駐車場は満車で入れず、東駐車場に止めることに成りました。 二宮氏の名解説で、ノダフジ、ミズキ、イチョウ、ユリノキを解説、 ギョイコウは半分くらい花弁が落ちていました。その後、日本庭園に行き、筍に養分を捕られた竹が茶色に色付いていました。 「竹の秋」の季語を説明いたしました。少しハードな行程でしたが、皆さんに満足して頂けたようです。	 野田藤 「のだふじ」は今から約600年前からその美しさで知られ、室町幕府二代将軍・足利義詮（よしあきら）が詠んだ歌が有名で野田（大阪市福島区）の地名が全国的になったと言われています。「吉野に桜・野田の藤・高雄の紅葉」は三大名所と言われます。樹齢1200年を超え、天然記念物に指定されている埼玉県春日部市の「牛島に藤」もよく知られています。	 イチョウ イチョウ科イチョウ属の落葉樹。秋の紅葉や茶碗蒸しに使う銀杏で馴染み深く、公園、学校、街路、社寺等に植栽される。約２億年前の中世代ジュラ紀に栄え、現在まで種を絶やさずに続く歴史の長い木だが、その仲間の多くは恐竜と共に氷河期に絶滅し、現在のイチョウ科の木はこれしかない。このためイチョウはメタセコイヤと共に「生きた化石植物」と呼ばれます。	
5	27	佐藤	渡辺	テーマ：公園を彩る自然の『色』～色にまつわる色々な話～ 天候：晴　　参加者：９名 彩り多いこの時期、テーマを『色』に設定。色の見え方、色素、色素の役割、色素の利用（染料）などについて植物を観察しながら解説しました。 ＜観察した主な植物＞ ヤマグワ、サツキ、ピラカンサ、モッコク、ミズキ、ヤマハゼ、アジサイ、ヤマボウシ、サンゴジュ、クチナシ、ヤゼウツボ、シャリンバイ、ヤグルマギク、ラベンダー、セキショウ、シラカシ、スダジイ	 葉っぱはなぜ緑色？（写真はトチノキ）	 自然界では何色の花が多いでしょう？ （写真はヤマボウシ 花びらに見えるのは苞）	

6	24	松本	河野	テーマ：目指せ、万太郎！　牧野富太郎博士の貢献を知る 天候：晴れ　参加者：７名（１名はFIS） NHKのTV小説「らんまん」にあやかり、牧野博士の功績や新種登録した植物や命名した植物を一部紹介しました。 博士が命名したノダフジとヤマフジのツルの巻き方からからはじまり、ネジバナの右巻き左巻き、今年３月に新種発表されたハチジョウネジバナの解説を行いました。 ハスはまだ咲いていませんでしたが、日本庭園ではスイレンとコウホネが観察できました。アジサイはシーボルトがつけた学名にある「オタクサ」のエピソードを紹介しました。 最後に庭園内のヤブレガサモドキで締めくくりました。	 アジサイの仲間 （アジサイ科アジサイ属） この時期の花といえばアジサイです。アジサイの学名には「otaksa」の記載があります。かつては日本の地方名とも考えられていたそうですが、今ではシーボルトが妻の「お滝」さんを偲び、献名したと知られています。この事実を突き止めたのが牧野富太郎博士とされています。	 ネジバナ （ラン科ネジバナ属） ネジバナは明るい草地や、プランターからも生えてきたりと、可愛らしい身近な植物です。　実は最近になり、身近なネジバナには2種類（ネジバナとハチジョウネジバナ）あることがわかりました。このように、牧野富太郎博士が根付かせた植物学は今も進展しています。	
9	23	久保	善宝	テーマ：秋の七草 天候：曇　参加者：11名（FIS会員1名を含む。この他幼児1名） 今回は、「空飛ぶ音楽祭」と重なったため、集合場所が時計塔前となった。最初に、山上憶良が詠んだ和歌２首を皮切りに、春の七草との対比、秋の七草の特徴を紹介し、そのうち公園内で見られる（下見時に確認できた）、萩、尾花（ススキ）、葛について、更に詳しく、特徴、同種間または似た種との見分け方、人との関わりなどについて解説。また、万葉集に詠まれている植物について紹介した。その後、参加者にとっての秋の七草を探そうと園内を散策しながら草花・樹木を観察し、最後に日本庭園で、コウホネ、スイレン、ヤハズススキ（タカノハススキ）を鑑賞して、解散となった。	 ススキ（芒、薄） ＜ ススキ（芒、薄）＞ イネ科ススキ属の植物。尾花とも言い秋の七草の一つ。かつては「茅（かや）」と呼ばれ、農家で茅葺（かやぶき）屋根の材料に用いたり、家畜の餌として利用されていた。ススキの群生地としては仙石原が有名。需要がないため、刈り取られず、草原を維持するため、野焼きをおこなっている。俳句では 秋の季語。気象庁が生物季節観測を行っている。熊谷のススキの開花日の平年値は９月１９日。 ＜山上憶良が詠んだ１首目＞ 秋の野に咲きたる花を　指折（およびおり）かき数えれば　七草（ななくさ）の花	 クズ（葛） ＜クズ（葛）＞ マメ科クズ属のつる性の多年草。日本では、根を用いて食材の葛粉や漢方薬が作られた。花は万葉の昔から秋の七草のひとつ。北アメリカでは日本から運ばれ、飼料作物、庭園装飾用植物、緑化・土壌流失防止として広まり、侵略的外来種に指定され、駆除が続けられている。グリーンスネイクと呼ばれている。 ＜山上憶良が詠んだ２首目＞ 萩の花 尾花 葛花 瞿麦（なでしこ）の花 姫部志剤（おみなえし）また藤袴　朝貌の花	

10	28	辰尾	毛利	テーマ『散歩で見つけよう今年の秋の魅力』 天候：曇り　　参加者：７名 猛暑の影響で今年の秋は葉が緑の樹木も多く秋の代名詞ともいえる紅葉がほとんど観察できない中、秋を感じる物を捜しながら歩くことにしました。①ピラカンサの赤くなりかけた実、秋の始まりか。②夏の終わりから秋の訪れを感じるキンモクセイの匂い。③葉がまだ緑のイチョウでしたが銀杏を沢山実らせ地面に落とした、臭い匂いの秋の訪れ。④花の丘には一面に白やピンクのコスモス（秋桜）が揺れていた。⑤ヒイラギモクセイの白い花が満開、花の形や枝への付き方はキンモクセイとそっくり。匂いはキンモクセイより控えめで優しく甘い香りでした。キンモクセイより少し遅れて秋を告げる花と匂いです。⑥時計塔よこのイチョウ並木、うっすら黄く色づき秋の始まりか。⑦カツラの黄葉した落ち葉、香ばしい甘い香りは秋の匂い。⑧ハナミズキの紅葉と真っ赤な実、秋の象徴。モミジの真っ赤な紅葉、イチョウの輝くような黄葉は見れませんでしたが、沢山の秋を見つけました。	 キンモクセイ　モクセイ科モクセイ属 キンモクセイは中国原産の小高木で、常緑広葉樹です。香りは秋の訪れを感じさせる心地よい香りとして多くの人に知られていて、幸福感やリラックス効果をもたらすと言われています。放送塔の周辺に大樹が5～6本ほどあり、強い香りを漂わせていますし、公園のあちこちの場所にキンモクセイの樹木があり、どこを歩いてもキンモクセイの香りがするように感じます。キンモクセイは甘い香りを放つジンチョウゲ、クチナシと合わせて日本三大芳香木のひとつに数えられています。キンモクセイの香りの主成分は、β－イオノン、リナロールなどです。例年だと９月頃に香り始めますが、今年は例年より遅い香り始めです。	 コスモス　キク科コスモス属 コスモスはメキシコ原産の一年草です。茎は高さ2～3mになりよく枝を出す。葉は対生で二回羽状複葉で細かく裂け、小葉はほぼ糸状になる。頭花は径6～10ｃｍ、周囲の舌状花は白から淡紅色、あるいは濃紅色。中央の筒状花は黄色。葯は黄褐色。通常は舌状花は8個。開花期は秋で秋桜と言う和名のとおり秋の訪れを感じさせる花として知られています。コスモスと言うと一般的にオオハルシャギクのことを指します。花言葉は、ピンク色は愛情・感謝、白色は純粋・清潔です。「花の丘」でコスモスが見られます。	
11	25	久保	佐藤	テーマ：「もみじ」と「種子散布」 参加者15名：天候　晴れ スタート直前に久保インストラクターからもみじとカエデの相違や語源、また様々な種子散布の方式についてかなり詳細な説明があり、その後参加者全体を「久保班」「佐藤班」の二班に分けてのガイドとなった。途中、本日のテーマ以外のものについても適時ガイドを行い、約１時間３０分のガイドウオークの後、彩翔亭で解散となった。	紅葉するツタウルシ 	ケヤキの風散布 	
12	16						
1	27						
2	24						
3	23						